

## 題材名 我が国の伝統音楽や芸能に親しみ、そのよさを味わおう

第2学年 「B鑑賞」(1)鑑賞 及び [共通事項](1)

### 1 題材の目標

- (1) 我が国の伝統音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりや、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。(知識及び技能)
- (2) 我が国の伝統音楽の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 我が国の伝統音楽の共通性や固有性、音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)



3つの資質・能力ごとに目標を設定する。

### 2 本題材で扱う学習指導要領の内容



第2学年及び第3学年 「B鑑賞」(1)鑑賞 ア(ウ), イ(イ)(ウ)

[共通事項](1) (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」,「旋律」)



ポイント 2




### 3 題材の評価規準

| 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|---|--|
| <p><b>知</b> 我が国の伝統音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりや、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p> <p><b>注意</b><br/>鑑賞の題材については、技能の評価規準は設定しない。</p> | <p><b>思</b>① <b>音色</b>, <b>旋律</b>を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <p><b>思</b>② 音楽表現の共通性や固有性について考え、我が国の伝統音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> | <p><b>態</b> 我が国の伝統音楽の共通性や固有性、音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

### 4 指導と評価の計画

| 時   | ◆ねらい ○学習内容 ・学習活動   | 知         | 思 | 態 |
|-----|--|-----------|---|---|
|     |  | < >内は評価方法 |   |   |
| 第1時 | <p>◆文楽の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて他者と交流しながら考える。 <b>ポイント 1</b></p> <p>○「日本の伝統芸能について思うことや知っていることは何か？」につ</p> |           |   |   |
|     |  |           | ↓ | ↓ |

|              |  |  |  |  |
|--------------|--|--|--|--|
|              | <p>いて自由に考え発表する。</p> <p>○文楽の特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文楽「新版歌祭文」の一場面を鑑賞する。(DVD 教材)</li> <li>・感じ取ったことをワークシートに書き、個人の気付きをもとに学級全体で意見交換する。</li> <li>・前時の学習との比較をする。</li> <li>「オペラと比べてどうだろう？」</li> <li>・文楽の起源や歴史を教科書で確認しながら、教師の説明を聞く。</li> </ul> <p>○声や楽器の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受する。(CD 教材)</p> <p style="text-align: center;">← <b>ポイント 2</b> →</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文楽「新版歌祭文」の一場面(場面 2)を鑑賞し、音色と旋律を活動の視点として、聞き取ったことをワークシートに書く。</li> <li>・書いたことをもとにして他者と交流し(2~3人)、その気付きを学級全体で共有する。(他の生徒の意見でよいと思ったことを色ペンでワークシートに書き加える。以降の活動でも同様。)</li> <li>・生徒の気付きから、太夫と三味線音楽の演奏などについて、演奏を聴いて確認する。</li> <li>・三味線の細棹と太棹の音色を聴き比べる。</li> </ul> <p>○知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴取したこと(根拠)をもとに、他者と交流し(班)、感受したこととの関わりについて考える。</li> <li>・関わりについては線で結ぶ。</li> </ul> <p>○義太夫節の表現に注目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義太夫節の表現に注目して、文楽「新版歌祭文」の一場面(場面 2)を鑑賞する。(DVD 教材)</li> <li>・太夫の産字や三味線による表現の効果について本時の学習を振り返りながら考える。</li> </ul> <p>○題材全体を通しての学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 時から第 4 時までの学習内容を確認し、本時に学習したこととのつながりや次時に向けての自身の課題などを考える。</li> </ul> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。</li> </ul> |  |  |  |
| <p>第 2 時</p> | <p>◆歌舞伎の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて他者と交流しながら考える。</p> <p>○前時の学習を振り返る。</p> <p>○歌舞伎の特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎「勸進帳」の一場面を鑑賞する。(DVD 教材)</li> <li>・感じ取ったことをワークシートに書き、個人の気付きをもとに学級</li> </ul>  |  |  |  |

|     |   |                      |  |   |
|-----|---|----------------------|--|---|
|     | <p>全体で意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎の起源や歴史を教科書で確認しながら教師の説明を聞く。</li> </ul> <p>○声や楽器の音色, 旋律を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。(CD教材)</p> <p style="text-align: center;"><b>ポイント 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎「勸進帳」の一場面(場面1)を鑑賞し, 音色と旋律を活動の視点として, 聴き取ったことをワークシートに書く。</li> <li>・書いたことをもとにして他者と交流し(2~3人), その気付きを学級全体で共有する。</li> <li>・唄と三味線, 囃子による表現について確認する。</li> </ul> <p>○知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴取したこと(根拠)をもとに, 他者と交流し(班), 感受したこととの関わりについて考える。</li> </ul> <p>○長唄の表現に注目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長唄の表現に注目して, 歌舞伎「勸進帳」の一場面(場面1)を鑑賞する。(DVD教材)</li> <li>・表現の効果について本時の学習を振り返りながら考える。</li> </ul> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。</li> <li>・次時の学習内容について確認をする。</li> </ul> |                      | <br><b>思</b><br>①<br>〈観察〉<br>〈ワークシート〉 |   |
| 第3時 | <p>◆我が国の伝統的な歌唱の体験を通して, 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史, 他の芸術との関わりや, その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。</p> <p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○長唄の模範演奏を聴き, 長唄の発声を体験する。← <b>ポイント 3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長唄の節回しや唄い尻を知覚・感受しながら「これやこの」の部分の模範演奏を聴く。</li> <li>・「これやこの」の部分の模範演奏に合わせて体全体で真似しながら<b>体験的に歌う</b>。← <b>ポイント 3</b></li> </ul> <p>○長唄を<b>体験的に歌う</b>ことを通して日本音楽の音楽的特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模範演奏を聴き<b>真似る</b>ことを繰り返し, 音楽的特徴を捉える。</li> <li>・合唱のときに歌う声と比較するなどして, <b>音色や旋律の特徴</b>について, 学級全体で意見交換をする。 <b>ポイント 2</b></li> </ul> <p>○我が国の伝統音楽の特徴から生まれる, 音楽の多様性について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と交流しながら音楽の多様性について考え, 理解する。</li> </ul> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。</li> <li>・次時の学習内容について確認をする。</li> </ul>                                | <b>知</b><br>〈ワークシート〉 |  |  |

|             |  |  |                                      |                                |
|-------------|--|--|--------------------------------------|--------------------------------|
| 第<br>4<br>時 | <p>◆文楽と歌舞伎の共通点や相違点について他者と交流しながら考え、我が国の伝統音楽や芸能のよさや美しさを味わう。</p> <p>○これまでの学習内容を手掛かりに、文楽と歌舞伎の共通点や相違点を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文楽と歌舞伎で同じ演目「勸進帳」を鑑賞し、2つの芸能の共通点や相違点について他者と交流しながら考え、音楽の多様性について理解したことを学級全体で発表し合い共有する。</li> </ul> <p>○我が国の伝統音楽や芸能のよさや美しさについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の伝統音楽のよさってどんなこと？」という問いについて、これまでに学習したことをもとに考え、自分の考えの深まりや広がりについての変容を振り返り、学級全体で意見交換をする。</li> </ul> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。</li> </ul> |  | <p>思<br/>②<br/>〈観察〉<br/>〈ワークシート〉</p> | <p>態<br/>〈観察〉<br/>〈ワークシート〉</p> |
|-------------|--|--|--------------------------------------|--------------------------------|

## 5 指導と評価の一体化に向けて

### ポイント 1 題材構想の段階で明確なねらいをもつ

今回、我が国の伝統音楽の共通性や固有性、また音楽の多様性について理解し、よさを味わって聴く力を身に付けることをねらいとして題材構想をした。評価は学習内容のまとめりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行ったことで、生徒の学習状況を把握し、教師の指導改善や生徒の学習改善に生かすことができた。

### ポイント 2 音楽を形づくっている要素を適切に選択する

音楽を形づくっている要素を選択したことで、生徒が課題に向かうために何をよりどころとして考えれば良いのかを焦点化することができた。要素を選択しない場合一人一人の思考の方向が分かれるため、学級全体で課題に向かうことが困難であると思う。

### ポイント 3 資質・能力を育成するために学習活動を工夫する

他者と交流することで気付きが増え学習活動が活発になった。また、個人では課題に向かえない生徒も、個と集団の実態に合わせて意図的に協働させることでねらいに向かうことができた。さらに、鑑賞するだけでなく口唱歌を取り入れたことで、生徒自身が実感を伴いながら気付いたり学びを深めたりすることができた。

## 6 まとめ

題材構想の段階で明確なねらいをもつことで、指導する内容が意識できるだけでなく、どの場面でのように評価するかを意識することができた。評価と指導の一体化に向けて、今後も教材研究を丁寧に行っていききたい。我が国の伝統音楽については、教師自身ができるだけ多くの時間、実際に「本物」の伝統音楽に触れることが重要であると感じた。学習指導へのはっきりした意図を持ち授業を実践していくために、今後も学び続けていきたい。